『東北帝国大学理科報告．第一輯（しゅう）．数学，物理学，化学.』

= The Science Reports of the Tôhoku Imperial University.
Ser.1, Mathematics, physics, chemistry

vol.1(1911/1912) ~ vol.32, no.1(1945)

■ 開講から１００日あまりでの創刊

1911 年３月、東北帝国大学理科大学として数学、物理、化学、地質の四学科が設置され、そのうち数学、物理、化学の三学科が先行して同年９月に授業を開始しました。それからわずか３か月あまりの 1912 年 1 月、地質学科の開講を待たずして「理科報告」が先行三学科により創刊されました。掲載される論文は英語・ドイツ語・フランス語、もしくはラテン語で書かれ、国内外の研究機関に配布されて東北帝大の業績を国際的に紹介しました。

■ 「理科報告」という名称について

大学が発行する学術雑誌の名称で一般的なのは「紀要」ですが、東北帝大の発行するこの雑誌は「理科報告（Science Reports）」と名付けられました。このさりげなく重みのある名称には、日本の、あるいは世界の理科学界にとって重要な雑誌であろうとする新生理科大学の自信と希望が、シンプルな形で込められているのを伺うことができます。

■ 理科報告「第一輯」シリーズと「第二輯」シリーズ

他の学科より開講が１年遅れとなった地質学科は、その理科報告を「第二輯（Second series）」と称して先行三学科の「第一輯（First series）」とは別のシリーズとし、1912 年１１月に第１巻第１号を発行しました。

■ 理科報告の終焉

戦後は 1949 年から「東北大学理科報告」と名称を変更して再出発をしましたが、その後、研究論文は大学の出版物よりも査読付きの国際誌に発表することが次第に主流となっていきました。理科報告第一輯は２００４年の８１巻を最後に、第二輯も 1996 年の 63 巻を最後に発行されておらず、現在ではほぼその役割を終えました。

理科報告第一輯第 1 巻の巻頭を飾った論文は、本多光太郎教授の論文「元素の磁気係数と温度との関係」でした。本多氏は当時の世界最強磁石となる K・S 磁石鋼（1916）、新 K・S 磁石鋼を開発し（1933）、金属材料研究所の初代所長（1919-1933）、東北帝大総長（1931-1940）を歴任しました。

本多光太郎教授（東北大学史料館写真 DB より）